



文教大学教育研究所
〒343-8511
埼玉県越谷市南荻島 3337
TEL 048-974-8811

教育研究所 ニュース

<http://www.bunkyo.ac.jp/faculty/kyouken/>

2023.11 第52号

- 卷頭言
- 世界の教科書展
「マレーシアの教科書Ⅱ」
- 海外の教科書所蔵一覧
- 桶川市〈世界の教科書巡回展〉のお知らせ
- 2023年度「定例研究会」「文教大学の授業」

ウィズ・コロナ時代の教科書展：SDGsを意識して

文教大学教育研究所 研究部主任 山川智子

教育研究所で30年近く続けている世界の教科書・教材等の収集事業は、これまでに約1万点を収蔵するに至っている。これらの教科書・教材を通して、本事業は、その時代の各地域の教育制度やカリキュラムを知るだけではなく、その地域社会が価値を置いた事象やことがらの変遷を明らかにするための「保存記録」（アーカイブ）としての役割を有している。集めた教科書は、越谷校舎の学園祭で開催する「世界の教科書展」において公開しているが、ウィズ・コロナの時代をむかえ、教科書展も新たな次元に足を踏み入れることになった。

2023年度の『第29回・世界の教科書展』では、2022年度にオンデマンド形式で開催した「特集・マレーシアの教科書」の第2弾とし、対面形式で開催した。（新しい試みとして、オンデマンド時代の利点も取り入れた。）対面形式での開催は、2019年度の「特集・台湾の教科書」以来、4年ぶりである。様々な条件に恵まれ、この10年で最多の来場者をお迎えできた。

オンデマンド開催の年（2021年、2022年）は、対象地域の社会や教育制度についての解説を教育研究所のHPに掲載した。さらに、研究所スタッフやコーディネーターによる解説動画を、申込者に向け、大学HPで限定公開した。遠方の方に本企画をご視聴いただけたのは大変有難いことであったが、教科書の実物展示ができなかったことは心残りであった。

対面開催の「世界の教科書展」の一番のアピール点は、教科書の実物を展示し、（感染対策も十分にとったうえで）来場者の皆さんに手に取っていただくことである。今回、2年連続でかつて（2005年）のリバイバル企画「マレーシアの教科書展」を企画・実施した意図を以下にまとめる。まず、冒頭で述べたように、教育研究所が所蔵するアーカイブス活用の一環として、ある地域（今回はマレーシア）における、この20年の変化（科目の増減や学習内容など）を比較することである。そのことにより、急激な発展とダイナミックな変化を続けてきた複合社会・マレーシアの社会や政治、教育制度、人々の価値観などが、この期間に、どのような変遷を遂げたのかを、時系列的に検討し、明らかにすることである。多文化社会マレーシアの現状は、近い将来の日本を映し出していると考えることができる。また、マレーシアは多くの英語教育関係者が注目する地域であり、英語を学ぶための留学先として候補に挙げる日本人も多いことも近年の特徴である。多くの民族を受け入れ、ともに暮らす社会の構築に取り組むマレーシアの教育について学ぶことで、閉塞感を抱える日本の現状を打破する突破口となるはずである。来場の方たちに教科書や解説パネルを通して、マレーシアの「いま」を実感していただけたのであれば、こんなに嬉しいことはない。

2023年度「世界の教科書展」 特集 マレーシアの教科書Ⅱ

2023年11月3日（金曜日）から5日（日曜日）
藍蓼祭参加 8202教室

1994年度から毎年開催されている「世界の教科書展」は教育研究所の特色ある取り組みのひとつである。越谷キャンパスの学園祭で開催される。ある地域の教科書だけでなく、その地域の概要や教育制度を紹介している。学外の来場者も多く、多くの人々と教育について語る場として発展してきた。

コロナ禍により2020年度は教科書展の実施を見送ったが、2021・2022年度は、学園祭の時期にオンライン（オンデマンド）で開催した。視聴の申請をいただいた方には学外の方でも、限定して公開した。「ウィズ・コロナ」でのオンライン形式に新しい可能性を見出し、コロナの心配がなくなった後にも活用できる持続可能な取り組みにつなげるようにした。

今年度は4年ぶりに対面での開催が復活した。教科書を手に取り、来場者同士で意見交換をするという、コロナ前までは当たり前であったことの有難みを実感しつつ、これらが再開できたことの喜びを感じている。対面再開の初年度は、昨年オンラインで実施し、教科書の実物を展示できなかった「特集：マレーシアの教科書」の教科書実物展示、およびパネル解説を行った。多文化社会であるマレーシアの教育について知ることは、近い将来の日本が直面する課題を解決するにあたり有益なものとなる。

次世代を担う子どもの教育を映し出す教科書を軸とした本企画「世界の教科書展」は、各地の教育の現状を比較検討した成果発表とも言える。これまでの伝統を踏まえつつ、「ウィズ・コロナ」に対応し進化を試みた教科書展を今後も維持し発展させたいと考えている。

（研究部主任 山川 智子）

～今までに開催した教科書展ポスター～



皆さん、文教大学教育研究所を知っていますか？

越谷キャンパスの文化祭（藍蓼祭）の期間中に「世界の教科書展」を開催しているのが教育研究所です。

教育研究所には33か国の教科書、約3000冊が所蔵されています。世界の教科書に興味があり、実際に触れてみたいという方は、ぜひ足を運んで下さい。

【10号館2階：月曜日～金曜日 / 9時～14時】

教育研究所所蔵の 海外の教科書

教育研究所では1991年の創設時より海外の小学校・中学校教科書を収集している。これまでに収集した小学校教科書の内訳は下表のとおりである。また、2017年度には公益財団法人モラロジー研究所から海外18か国7,249冊の教科書を受贈し、本研究所が所蔵している世界の教科書コレクションは33か国10,293冊となった。

研究部ではこれらの教科書をもとに各国の教育制度や教育事情を研究し、その成果を「世界の教科書展」において毎年発表している。今年度は、

昨年度オンデマンド配信で行った、マレーシアの教科書を再特集し、ご来場頂いた方に、教科書実物を手に取ってご覧になって頂いた。

海外の教科書を収集・保管する学術機関は少なく、またそれらの購入も容易ではないため、ここ数年ではマスコミをはじめとする各方面からの問い合わせや取材申し込みが増えており、貴重な資料として注目されている。海外の教科書については、貸し出しはおこなっていないが、研究所での閲覧は自由であるため、ご覧になりたい方は教育研究所（10号館2階）までご連絡のうえ、お気軽にお越し頂きたい。

（河口 恭子）

小学校 (2023/10/31現在)	国語	社会	算数	理科	生活科	総合科	音楽	美術	体育・健康	実科	英語	日本語	宗教道德	情報	国際理解	その他	計
アメリカ	42	16	46	8		5										3	120
イギリス	20	12	8	12										10			62
イタリア	30	16	16	7		7		3			18		7			23	127
インド	141		5			10			7				9	15			187
エジプト	19	9	10	6	20						16		20				100
インドネシア	6	12	6	6				6	2		6		6			6	56
オーストラリア	60	7	23	18				6	10	6		3	3		1	7	144
オランダ	2	3	6	6							1					2	20
韓国	26	14	23	16	10		4	4	8	2	6		10			8	131
ケニア					3												3
シンガポール			23	13					6		5						47
スイス	2		1														3
スペイン	6	4	6	6		4					6		7	2		1	42
スリランカ	7		5								6		6				24
タイ	12	6	7	6	1	1		2	6	6	6					6	59
台湾	21	14	22	14	6	20		22	21		20						160
中国	10	11	16	15			6	5			44		6			1	114
ドイツ	8		11		20	4	2	3			17		3				68
トルコ	10	10	9	2	5		6				15		9	1		12	79
バングラディッシュ	5		3								1					3	12
フィンランド	28	7	26	18							13						92
ブラジル	10	9	9	9				5			5		11			6	64
フランス		10	7								20						37
ベトナム	14	4	8	6	2		5	5	3	2			4			2	55
ポーランド	1		1	1													3
マレーシア	36	6	33	22	7		3	5	15	3	33		24	3		15	205
ラオス	10		10		10			5	5		6					5	51
ロシア	51	1	27	3	26	0	4	9	4	11	36	0	0	7		3	182
計	577	171	367	197	107	51	30	80	87	30	280	3	125	38	1	103	2,247

桶川における
「<世界の教科書>巡回展」

2023年12月8日～12月13日
「OKEGAWA hon+」
(桶川駅西口駅前桶川マイン3階)

教育研究所は「教育に関わる幅広い研究の推進とそれに基づく社会的貢献」を理念に掲げ、学内外で連携をとりつつ、様々な研究活動を行っている。中でも学園祭（藍蓼祭）で開催される「世界の教科書展」は多くの関心を集めてきた。2016年度からは地域貢献の一環として、学外でも教科書展を開催している。

コロナ禍で2020年度は、学内・学外で教科書展の開催を見合わせたが、2021・2022年度は、オンライン（オンデマンド）での教科書展を実現させた。2023年度は、教科書展の特色（教科書を手に取り、会場で意見を交換する）を出すべく、4年ぶりに対面での教科書展を再開し、研究所の活動を公開していく。

今年で7回目となる巡回展は、「OKEGAWA hon+」(桶川駅西口・桶川マイン3階)にて、12月8日（金）～12月13日（水）に開催予定である。テーマは「マレーシアの社会・文化・教育の変遷と現在」である。コーディネーターの手嶋将博先生(教育学部)には、マレーシアの教育制度をはじめ、社会と文化を総合的に理解するための重要なことがらをパネルでご説明いただいている。

開催中の12月10日（日）には、手嶋先生によるレクチャー（対面の予定）も行われる。マレーシアの現状や教育について、桶川の方たちと情報共有していきたい。

大学と地域とが連携して教育を考えていくにあたり、国際比較は重要なテーマである。連携事業の一環として、地域の方たちに教育研究所の活動を紹介する機会となればと願っている。

(研究部主任 山川 智子)

「定例研究会」発表一覧

第102回 8月11日(金) 13:00～15:00

- ・ビブリオバトルの多様な実践の在り方について
—保育の質を高め、キャリアをつないでいくための実践を探る— 綾 牧子
- ・社会教育主事の役割と専門性について
—“教科書”における表現と実践の場を通して— 阪本 陽子

第103回 11月 4日(土) 12:45～16:40

- ・豊かなかかわり合いの中で、今と未来に生きる
—自分が好き、ひとが好き、運動が好き— 清水 香保里
- ・基礎教育の保障 矢作 由美子
- ・特別支援教育における食農教育の研究 木場 雪香
- ・哲学対話による教員と生徒との信頼関係の構築
—エンカレッジスクールにおける実践報告— 塚原 元気

- ・小学校英語教育をクリティカルな視点からとらえることは可能か？ 大石 海

第104回 3月 2日(土) 13:00～15:00

- ・公立小学校内における多世代・異文化をベースとした居場所づくりと運営（仮） 中川 真規子
- ・公立小中学校における性別違和をもつ児童生徒への対応に関する研究2（仮） 松嶋 淑恵
- ・就学前教育と小学校教育とのカリキュラム接続の研究 梨子 千代美
- ・教員の専門職性に関する研究
—「教員」の専門性と「教職」の専門性を手掛かりにして— 大西 健介

2023年度
『文教大学の授業』執筆者紹介

- 第84号 文学部 ラメイ・アレック 先生（既刊）
- 第85号 教育学部 久保村 里正 先生（既刊）
- 第86号 国際学部 海津 ゆりえ 先生（既刊）
- 第87号 人間科学部 金藤 ふゆ子 先生

2023年度 教育研究所スタッフ

- | | | |
|-------|-------|------------|
| 所長 | 手嶋 将博 | |
| 研究部主任 | 山川 智子 | 研修部主任 小幡 肇 |
| 事務 | 河口 恭子 | |